

登壇者略歴

■ 基調講演



箕浦 龍一（みのうら りゅういち）氏

元総務省官僚。

公務部門ワークスタイル改革研究会 研究主幹

一般財団法人 地域活性化センター シニアフェロー
（人材開発、働き方改革、ワーケーションなど）

一般社団法人 官民共創未来コンソーシアム 理事

一般社団法人 日本スポーツ・ヘルスケア・デザイン
推進機構 理事

一般社団法人 日本ワーケーション協会 特別顧問

平成3年4月 国家公務員任官（総理府・総務庁採用）

沖縄開発庁、総理府広報室、福井県警察本部、総務庁人事局、総務省人事・恩給局、内閣官房行政改革推進本部事務局、総務大臣秘書官等を経て、2015年7月、総務省行政管理局企画調整課長、2018年7月行政評価局総務課長。

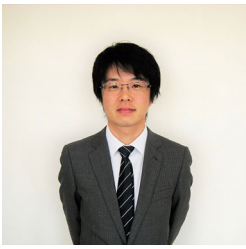
2021年7月、総務省大臣官房サイバーセキュリティ情報化審議官（内閣官房政府副CIO兼務）を最後に退職。

総務省時代には、オフィス改革を中心とする働き方改革に取り組み、その実績により人事院総裁賞を受賞（両陛下に拝謁）。2017年の日本行政学会では、「機動力の高いナポレオン型管理職」として紹介される。2018年には、中央省庁初となる中央省庁と基礎自治体との短期交換留学も実現するなど公務部門の若手人材育成にも取り組んで話題となった。

2020年11月、一般財団法人行政管理研究センターの協力を得て、「公務部門ワークスタイル研究会」を立ち上げ、その研究主幹に就任。

「軽井沢リゾート・テレワーク協会」や「金沢イノベーション・ハブ研究会」、食を通じて健康と医療を考える「フードメディシンネットワーク」など、様々なプロジェクト・コミュニティにも参画している。

■ 先進事例紹介



上前 知洋（うえまえ ともひろ）氏

長野県立科町企画課地域振興係係長。兵庫県西宮市出身。信州大学大学院総合工学系研究科修了。

2010年、長野県職員に採用。立科町への職員派遣をはさみ、健康福祉部で検診制度の設計・推進や産業労働部で中小企業のマーケティング支援業務に従事。2016年に県職員を退職し立科町職員となり、企画部門で主に地方創生業務に従事。社会福祉型テレワーク事業や学生によるアイデアソン事業、移住促進事業、関係人口の創出事業などを担当している。観光庁「新たな旅のスタイル促進事業」アドバイザー。生涯活躍のまちアドバイザー。

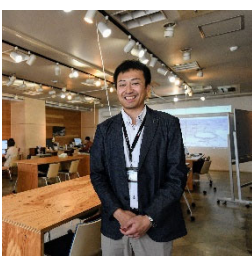
■ トークセッション



西野 寛明（にしの ひろあき）氏

1983年北海道北見市生まれ。株式会社ロジカル代表取締役。北海道帯広柏葉高校→東京都立科学技術大学（現・首都大学東京）→SBI大学院大学卒。大学卒業後は株式会社SBI証券に入社。平成24年に北見に帰郷後、株式会社Rogicalを設立。

平成27年に北見市総合戦略策定委員会委員、平成28年には北見市行財政改革推進委員会委員を歴任する。また一方ではヤキニキストの愛称で自他共に認める焼肉振興キャラとして、北見市の焼肉普及活動も行う。



松本 武（まつもと たけし）

北見市商工観光部工業振興課工業係長。地元志向の強い北見工業大学の学生を、首都圏のIT企業本社で採用し育て、北見進出時のスタートアップ人材として、地元に戻ってテレ

ワークで働く「サケ（鮭）モデル」での企業誘致を推進。

またUターンが見込める地元出身の大学生を対象に、テレワークに特化したインターンシップを展開するほか、テレワークの拠点を中心商店街に整備するなど、首都圏の人と仕事の誘引による地域経済の活性化に取り組む。